

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県上野森林公園 (伊賀市下友生字松ヶ谷1番地)
指定管理者の名称等	伊賀森林組合 代表理事組合長 井上 貞夫 (伊賀市ゆめが丘7丁目7番地の1)
指定の期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	ア 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 イ 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 ウ 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 エ 自然体験型のイベントの実施に関する業務 オ ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 カ 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 キ その他の森林公園の管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H23	B		・5年間の管理期間を通じて、公園内の森林、植栽木、芝生広場等の植物管理、自然学習展示館や消防施設、浄化槽、遊具等の保守点検などの管理業務を適正に実施した。 ・巡回活動による異常箇所早期発見に努め、施設の適正な維持管理や環境の美化に取り組んだ。 ・通常の管理については、公園ボランティア「モリメイト」と連携し、効率的に管理を行った。
H24	B		
H25	B		
H26	B		
H27	B		

3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H23	B		・施設利用者については、5年間とも目標数値の73,000人を超え、特に平成27年度については84,278人となり、目標を大きく上回った。 ・施設の利用促進のため、団体利用のサポートにも積極的に取り組んでいる。小さい時から自然に親しみ、自然体験をしてもらうため、「子ども森林くらぶ(対象年齢:5～12歳)」「森っこくらぶ(対象年齢:0～4歳)」等を開催した。
H24	A		
H25	B		
H26	B		
H27	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	132,930,000	事業費	10,569,137
利用料金収入	0	管理費	124,427,294
その他の収入	2,836,354	その他の支出	0
合計 (a)	135,766,354	合計 (b)	134,996,431
収支差額 (a)-(b)	769,923		

参考

利用料金減免額	
---------	--

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	H23	H24	H25	H26	H27
H23	B		施設利用者数	73,000人	73,341人	76,870人	76,196人	78,179人	84,278人
H24	A		施設利用者の満足度	80%	82.9%	80.1%	76.2%	76.5%	92.6%
H25	B		自然体験型イベントの満足度	92%	90.1%	92.2%	90.4%	93.2%	92.6%
H26	C								
H27	A								
全期間におけるコメント									
<p>・施設利用者数は、初年度より目標数値を上回り、その後もおおむね増加傾向にあるなど評価できる。</p> <p>・施設利用者の満足度については、木製施設の老朽、水道の漏水によるトイレの利用制限等、指定管理者の責でない事由により達成できていない年もあったが、平成26年度に大規模な補修を行ったことにより満足度の向上が見られた。</p> <p>・自然体験型イベントの満足度については、達成できていない年もあったが、新規のイベントを開発するなど、満足度の向上に向けた取組が見られた。</p>									

6 総括コメント

<p>・伊賀森林組合は、森林管理についての専門的な知識や技術があることや、現地管理責任者を専属配置し、危機管理や責任体制の十分な計画を立て、指定管理者として必要となる組織的な管理運営体制が確立されていたことが評価され、選定された。希少植物の保護など生物多様性に配慮しつつ、野生生物の観察や学習もできる場所としての管理方針が提案され、県民の心身の健康の増進及び森林環境教育の場としての、十分な機能発揮と長期的な森林の姿を見据えた適切な森林管理が期待された。</p> <p>・施設利用者の目標については、施設利用者へのサポートなどにも積極的に取り組み、5年間目標数値を上回った。</p> <p>・前回の指定管理期間から実施している、伊賀地域の特色を活かした「一句詠んでだぁこ」など来園者に俳句を詠んでもらう行事の開催や、三重県環境学習情報センターなどと協力した他地域での行事への参加、また「こども森林くらぶ」「森っこくらぶ」など子供を対象とした森林環境教育についても積極的に取り組んだ。</p> <p>・伊賀地区駅伝の中継地点への利用、地元高校陸上部のトレーニング地の提供、ノルディックウォーキングのコース利用など、新たな利用形態が定着するとともに、公園利用者である高校生に協力してもらい森林整備で発生したチップを歩道に敷くなど、地域と連携した公園の管理を行った。</p> <p>・施設の管理については、公園ボランティア「モリメイト」と連携して効率化を図るなど適正な管理に努めたが、老朽化した施設の影響により、満足度が目標数値を下回る年もあった。</p> <p>・業務執行体制では、事務分担や責任の所在を明確にするとともに、森林公園管理事務所に所長1名、森林組合職員1名、嘱託員4名を配置している。</p> <p>・危機管理に関しては該当マニュアルを作成し、自然災害や公園内の事故への対応や報告体制について平日、休日ともに整備し、適切な対応を行った。</p>

「2 管理業務の実施状況」の自己評価	「A」	業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
	「B」	業務計画を順調に実施している。
	「C」	業務計画を十分には実施できていない。
	「D」	業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
「3 施設の利用状況」	「A」	当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
	「B」	当初の目標を達成している。
	「C」	当初の目標を十分には達成できていない。
	「D」	当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
「5 成果目標及びその実績」の自己評価	「A」	当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
	「B」	当初の目標を達成している。
	「C」	当初の目標を十分には達成できていない。
	「D」	当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
県の評価	「+」(プラス)	指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
	「-」(マイナス)	指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
	「 」(空白)	指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。